

『チームでつくる探究的な学び』ワークシート

「第6章 学校図書館が支援できる指導ポイント」(103~123ページ)に掲載のワークシートの一部は、下記のワークシートを選びクリックすればダウンロードできます。

情報収集への支援・指導

- | | |
|------------------------------------|----------------------------------|
| 01 情報の生産と流通の特徴 | 07-1 情報カード(要約)からの文章化【記入例】 |
| 02 情報源(情報メディア)の種類 | 07-2 情報カード(要約)からの文章化 |
| 03 学校図書館での情報収集の流れ | 08 調べたい事柄のキーワード化 |
| 04 NDCマップで本を探そう | 09 インターネット情報の評価 |
| 05 図書の出典の見かた | 10 情報の読み解き①(主張の把握) |
| 06-1 情報カード(写し書き)からの文章化【記入例】 | 11 情報の読み解き②(主張の見極め) |
| 06-2 情報カード(写し書き)からの文章化 | 12 学校図書館の活用方法 |

考察・評価への支援・指導

- | | |
|---------------------------|-------------------------------|
| 13-1 問いの整理シート【記入例】 | 17-1 批判的思考で意見をつくる【記入例】 |
| 13-2 問いの整理シート | 17-2 批判的思考で意見をつくる |
| 14 マンダラート(ロータスマップ) | 18 知識の変化の確認(KWLチャート) |
| 15 考えるための技法 | 19 探究計画表・実施進行表 |
| 16 5W1Hマップ | 20 中間発表(探究方針の発表) |

表現・発表への支援・指導

- | |
|------------------------|
| 21 ハンバーガー形式の意見文 |
| 22 論証文フォーム |



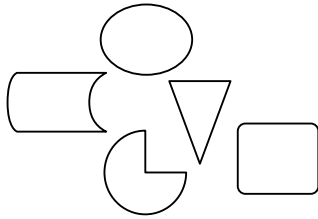
桑田てるみ(2016)『思考を深める探究学習』掲載の参考文献

本書『チームでつくる探究的な学び』の元となった、桑田てるみ(2016)『思考を深める探究学習』(全国学校図書館協議会)に掲載していた参考文献です。探究学習を進める上で重要な資料でもあるので、閲覧できるようにいたしました。

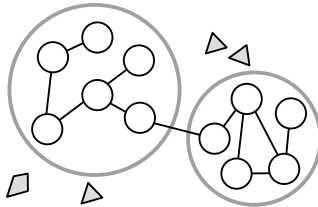
* 出典の記載を消さずにこのままご利用ください。なお、ワークシートを改変して利用したい場合は、全国学校図書館協議会までご連絡ください。

01

1 情報はいつ生まれ、どのように流通するか確認しましょう。



最初は、断片的な情報の集まりであり、速報性は高いが、間違いが含まれることも多い。



バラバラな情報が整理され、間違いが取り除かれて、信頼性が高まる。



書籍化されると、体系的でまとまった情報となり、信頼性も高まる一方で、内容が古くなることによる間違いが出てくる場合がある。

公的な(公式)メディア

テレビ
ラジオ
公式ネット
ニュース

新聞
(紙メディア)

雑誌記事
電子ジャーナル

学術論文

一般書籍

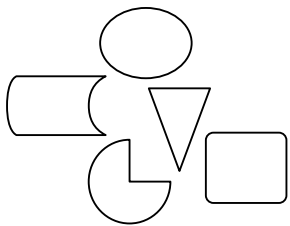
事典類
教科書

私的なメディア

SNSの投稿
SNSへのコメント

ブログ
個人のサイト

まとめサイト
など



個人のメディアで発信される情報は、時間が経過しても体系化されることがなく、断片的なままであることも多い。時間が経過したので信頼性も高まる、とは言えない場合も多い。

いま

今日

1日後

1週間後

数か月後

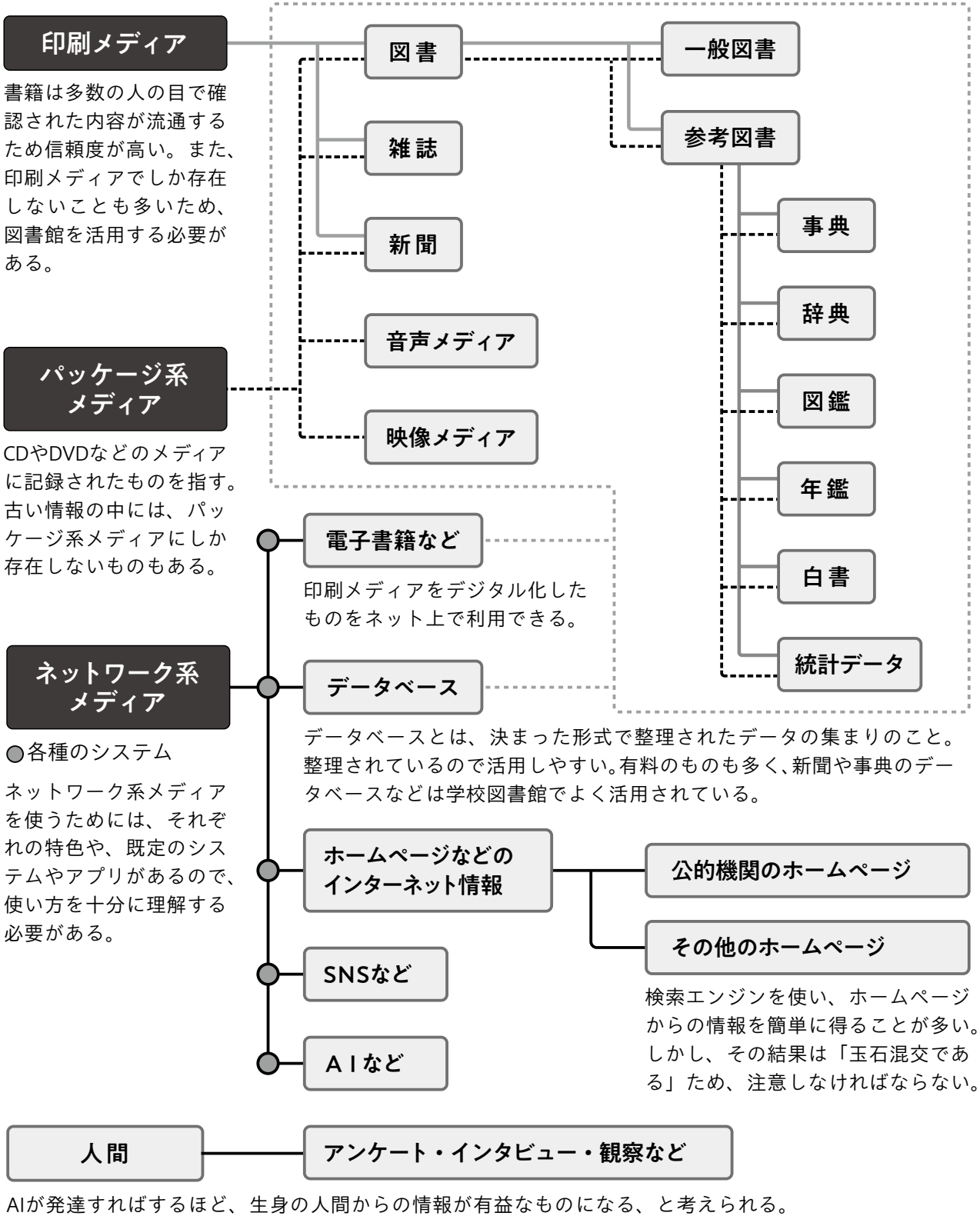
1年後

数年後

2 情報は時間の経過とともに、どのように変化するかまとめてみましょう。

02

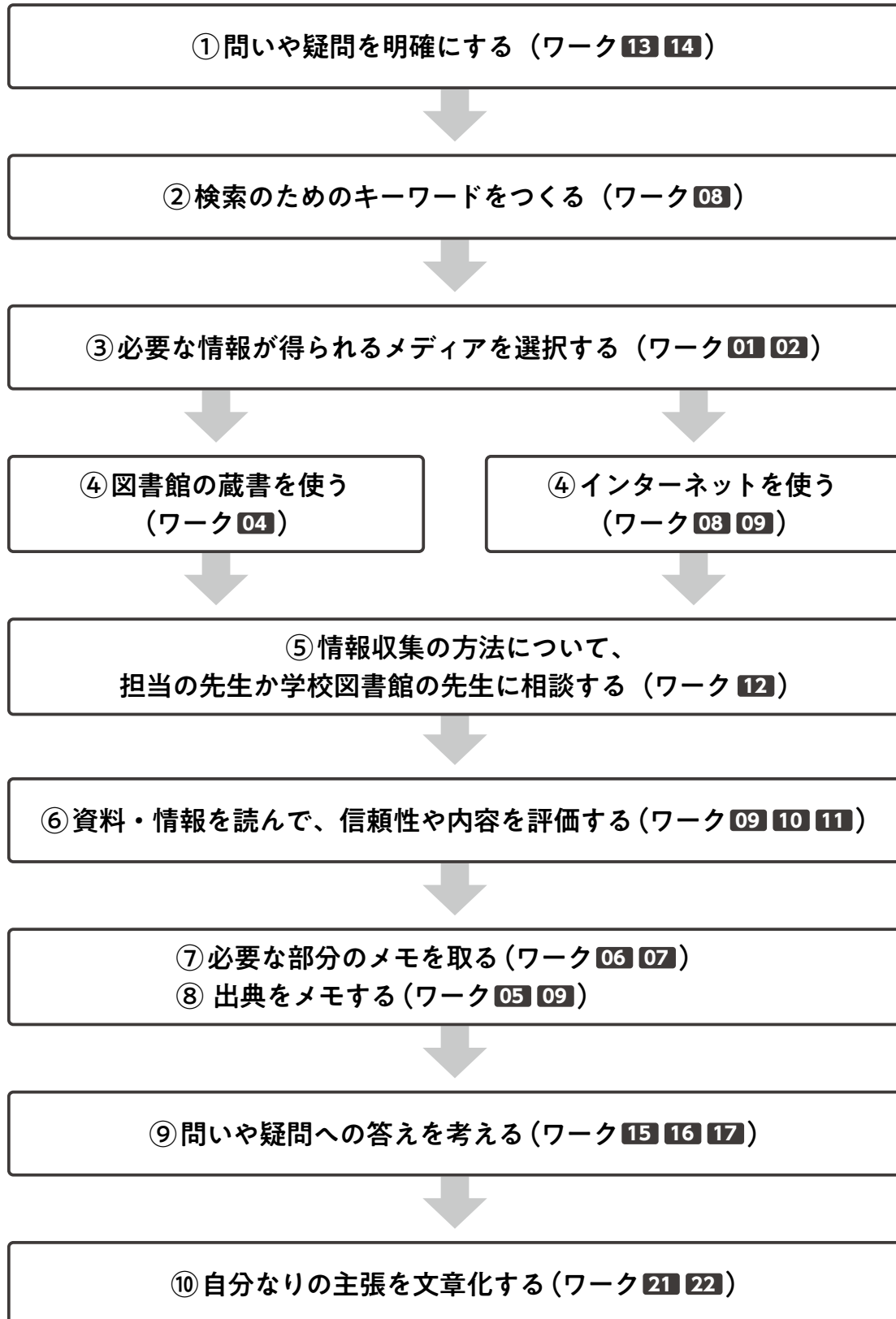
1 情報はさまざまなメディアにのっていることを確認しましょう。



2 収集したい情報は、どのメディアにのっていきそうか考えておきましょう。

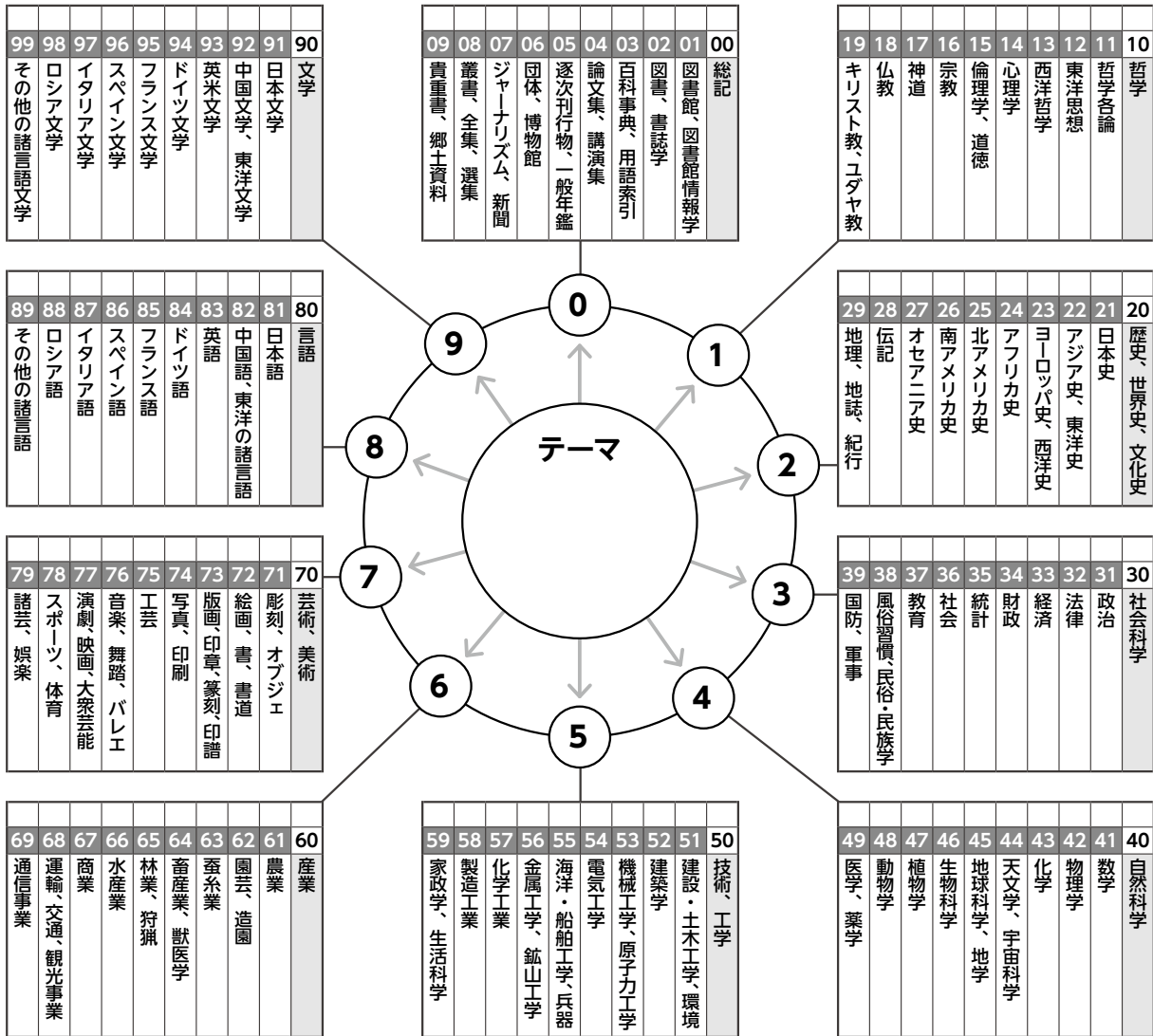
03

- ❶ 学校図書館での情報収集の流れを把握しましょう。
- ❷ ワークシートを使って情報収集を進めましょう。
- ❸ 収集した情報をもとに、考えを深めましょう。



04

- 1 あなたの興味のあることやテーマを、まん中に書きましょう。
- 2 NDCマップを見て、興味やテーマに関連する本がありそうな方向に矢印(→)を入れ、気になった分類にはチェック(✓)をします。



- 3 どのような本が見つかりそうか予想してみましょう。

- 4 NDCマップを参考にして、興味がある本やテーマに関連する本を学校図書館で見つけてみましょう。

05

❶ 図書の巻末には、「奥付」というページがあり、著者名・出版社名・出版年などが書かれています。図書の参考文献リストを書くときは、ここを見ましょう。

② 書名	思考を深める探究学習
④ 出版年	2020年 10月31日 第1版第1刷発行 2021年 3月10日 第2版第1刷発行 2022年 5月15日 第2版第2刷発行 2023年 7月31日 第2版第3刷発行
① 著者	著者 桑田てるみ イラスト 丸山誠司 発行者 設楽敬一
③ 出版社	発行所 公益社団法人全国学校図書館協議会 〒113-0034 東京都文京区湯島3-17-1 湯島大同ビル 電話 03-6284-3722 印刷・製本所 株式会社 厚徳社

出版年は、いちばん新しい「第〇版」と書かれた年月を書きます。「第〇刷」は印刷した記録なので、その年月は書きません。

落丁・乱丁本はお取替致します。
Printed in Japan

① 著者	桑田てるみ
② 書名	思考を深める探究学習
③ 出版社	全国学校図書館協議会
④ 出版年	2021年3月

*「版」が変わると、本の内容が変更されたという意味です。「刷」とは、印刷した回数の記録なので、本の内容は変更されていません。そのため、その年月は参考文献リストには書きません。

❷ 図書館の本の奥付を見て、著者名・書名・出版社名・出版年を書いてみましょう。

① 著者	
② 書名	
③ 出版社	
④ 出版年	

06-1

❶ 必要な情報を写し書きしたら、参考にした資料・情報の出典もメモしましょう。

情報カード			
No. 年 月 日			
課題 (テーマ)	国際交流		
調べること	音楽での国際交流		
記述内容 (写し書きするときは「」をつけて書きましょう)	<div style="display: flex; justify-content: flex-end; gap: 10px;"> 写し書き 要約 </div> <p>「K-POPやJ-POPなど、各国独自の音楽が〇〇年代から発展し、独自のファンが存在する」「国境を超えるミュージシャンが存在し、ファンの交流も盛んである」</p>		
意見			
参考にした資料	書名	音楽交流の歴史	
	論文名		
	著者	事情とおる	
	出版社	MIGO出版	出版年 2023
	利用したページ	P.31 ~P.	
	インターネット	タイトル・作成者	
	情報を確認した日		
	URL		
	検索キーワード		

❷ 写し書きした文章に「」をつけて区別し、出典もわかるように文章化しましょう。

事情 (2023) によると、「国境を超えるミュージシャンが存在し、ファンの交流も盛んである (P.31)」と述べている。

06-2

1 必要な情報を写し書きしたら、参考にした資料・情報の出典もメモしましょう。

情報カード	
No. _____ 年 ____ 月 ____ 日	
課題 (テーマ)	
調べること	
記述内容 (写し書きするときは「」をつけて書きましょう) 写し書き 要約	
意見	
参考にした資料	本・雑誌
	書名
	論文名
	著者
	出版社 出版年
利用したページ P. ~P.	
インターネット	タイトル・作成者
	情報を確認した日
	URL
	検索キーワード

2 写し書きした文章に「」をつけて区別し、出典もわかるように文章化しましょう。

07-1

1 必要な情報を要約したら、参考にした資料・情報の出典もメモしましょう。

情報カード		
No. 年 月 日		
課題 (テーマ) 国際交流		
調べること 音楽での国際交流		
記述内容 (写し書きするときは「」をつけて書きましょう) 写し書き 要約		
<p>熱心な音楽ファンは世界中で開催されるコンサートやファン集 会に参加するなど、音楽には国境はない。</p>		
意見		
参考にした資料	書 名	
	論文名	
	著 者	
	出版社	出版年
	利用したページ P. ~P.	
	インターネット	タイトル・作成者 音楽ファンの心理
情報を確認した日 2023. 10. 31		
URL https://www.fanjp.com/ongakupost.html		
検索キーワード 国際交流 音楽		

2 要約してまとめた文章を利用する場合、出典がわかるように文章化しましょう。

熱心な音楽ファンは世界中で開催されるコンサートやファン集会に参加するなど、音楽には国境はない (音楽ファンの心理, <https://www.fanjp.com/ongakupost.html>) ため、音楽による国際交流は確実に存在している。

07-2

1 必要な情報を要約したら、参考にした資料・情報の出典もメモしましょう。

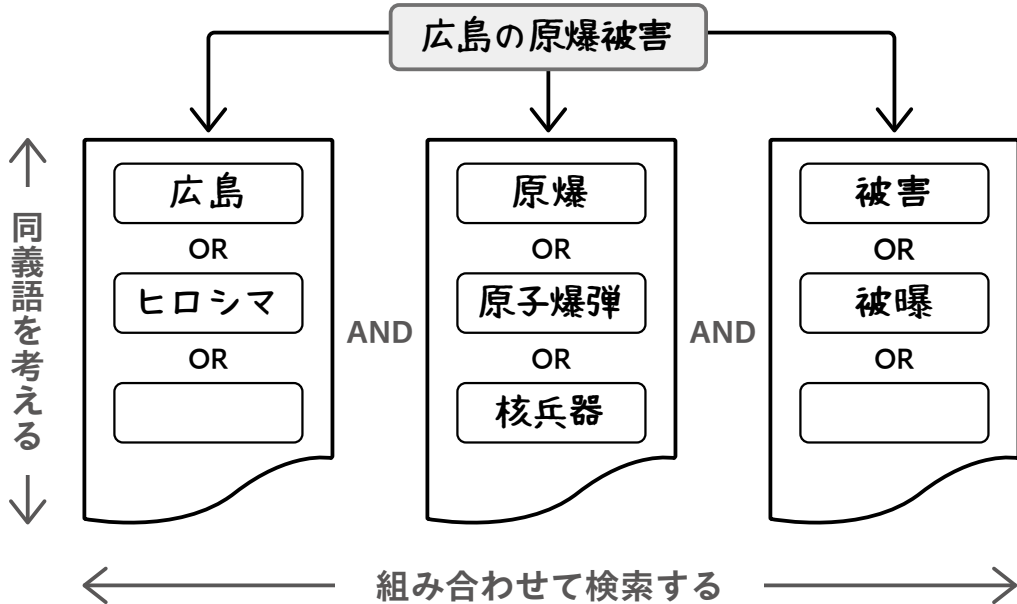
情報カード	
No. 年 月 日	
課題 (テーマ)	
調べること	
記述内容 (写し書きするときは「」をつけて書きましょう) 写し書き 要約	
意見	
参考にした資料	本・雑誌
	書名
	論文名
	著者
	出版社 出版年
	利用したページ P. ~P.
インターネット	タイトル・作成者
	情報を確認した日
	URL
	検索キーワード

2 要約してまとめた文章を利用する場合、出典がわかるように文章化しましょう。

08

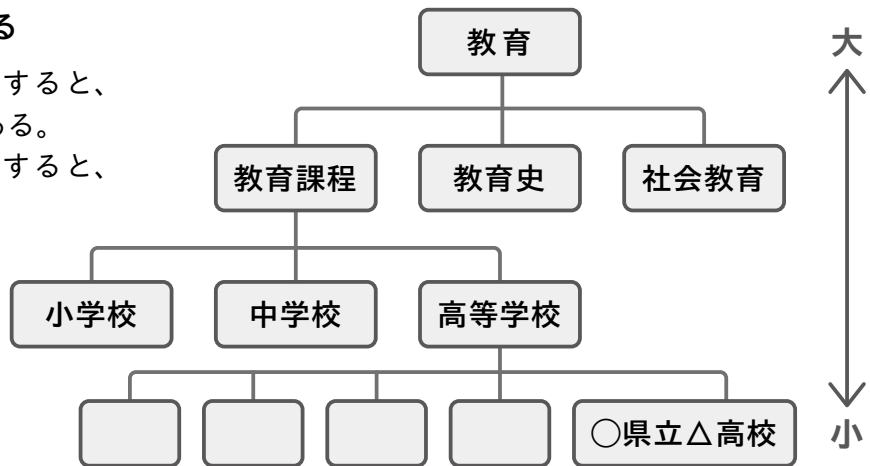
❶ 情報検索をするとき、調べたい事柄をキーワード化する必要があります。その際、同じ意味をもつ言葉（同義語）や、意味内容（概念）の大きさを意識しましょう。

▶ 同義語を意識する



▶ 概念の大きさを意識する

- 大きすぎる概念で検索すると、情報が多すぎることがある。
- 小さすぎる概念で検索すると、情報がないこともある。



❷ 調べたい事柄をキーワード化しておきましょう。

09

1 インターネット情報を評価しましょう。

チェック	確認事項	確認すべき部分
<input type="checkbox"/>	作成者・組織	どのような人や組織が作成しているWebサイトか？ 見分け方の例： www.〇〇.go.jp ←日本政府関連機関
<input type="checkbox"/>	内容の信頼性	内容が偏っていないか？ サイトの目的は何か？ データなどの根拠が示されているか？
<input type="checkbox"/>	内容の新鮮さ	いつ作成された情報か？ 古くないか？
<input type="checkbox"/>	Webページの質	リンク切れがないか？ 誤字脱字はないか？ よく考えられた構成になっているか？

2 インターネット情報の出典を確かめて、メモを取りましょう。

The screenshot shows a browser window with the URL <https://www.j-sla.or.jp/material/index.html>. The page title is '学校図書館協議会 | 図書館に役立つ資料'. The page content includes the SLA logo and navigation menu. Callouts point to specific elements:

- ② ページタイトルは、タブの部分を見るとわかりやすい (Page title is easy to see in the tab)
- ③ URL (アドレス) (URL (address))
- ① 製作者は、ページの上部や下部に記載されていることが多い (The creator is often listed at the top or bottom of the page)
- トップページタイトルはナビゲーションのHOMEやTOPを確認 (Check the top page title for HOME or TOP in the navigation)
- ① ページの下部に記載された製作者名 (Creator name listed at the bottom of the page)

① 作成者	全国学校図書館協議会
② ページタイトル	図書館に役立つ資料
③ URL	https://www.j-sla.or.jp
④ アクセス日	2024/02/19

① 作成者	
② ページタイトル	
③ URL	
④ アクセス日	

❶ 集めた情報を読み解きます。まず、ざっと目を通してみましょう。

スキミング (拾い読み)

しかし、そのアクティブ・ラーニングには問題がないわけではありません。グループ活動をした場合に参加しない者がいたり活動そのものが活性化しなかったりする問題があります。

さらに問題なのは、アクティブ・ラーニングを行うと知識のインプットをする時間が減ります。しかし、アクティブ・ラーニングに求められるような高いレベルの思考

主題をつかむために、ざっと読むのがスキミングです。

スキヤニング (探し読み)

しかし、そのアクティブ・ラーニングには問題がないわけではありません。グループ活動をした場合に参加しない者がいたり活動そのものが活性化しなかったりする問題があります。

さらに問題なのは、アクティブ・ラーニングを行うと知識のインプットをする時間が減ります。しかし、アクティブ・ラーニングに求められるような高いレベルの思考

ほしい情報を素早く見つけるために、キーワードを拾い読むのがスキヤニングです。

❷ 次に、接続表現に注意してみましょう。話題の展開に使われる表現に着目することで、著者の主張の流れがわかりやすくなります。

<input type="checkbox"/>	付加	しかも、さらに、くわえて、なお、かつ、そのうえ
<input type="checkbox"/>	解説	すなわち、つまり、要するに、換言すれば
<input type="checkbox"/>	理由、帰結	なぜなら、というのも、だから、よって、したがって、それゆえ
<input type="checkbox"/>	例示	たとえば、その例として、具体的には
<input type="checkbox"/>	転換	しかし、ところが、～だが、～けれども、～にもかかわらず
<input type="checkbox"/>	制限	ただし、もっとも、～とはいえ
<input type="checkbox"/>	対比	一方、他方、それに対して、ところで、反対に

❸ 読み解いた著者の主張を書いておきましょう。

❶ 読み解いた情報について、考えを深めます。著者の主張に「質問」をしてみましょう。

	質問	確認事項	チェックポイント
<input type="checkbox"/>	どういうこと？	概要の説明・解説の有無	基本的な用語解説がされているか？ 定義が間違っていないか？
<input type="checkbox"/>	何が言いたいのか？	明確な主張の有無	主張がはっきり表明されているか？ 言いたいことは何か？
<input type="checkbox"/>	どうして？	主張の理由・根拠の有無	主張を支える例やデータがあるか？ 参考文献としてあげているか？
<input type="checkbox"/>	本当に？	主張の理由・根拠の妥当性	例やデータは新しいか？正しいか？ 主張を支えるものとして適切か？
<input type="checkbox"/>	これでいいの？	主張の価値の有無	自分勝手な主張になっていないか？ 一般的に価値がある主張か？

❷ 「事実と意見」、「推測と断定」などを見極めることも必要です。以下を参考にして、著者の主張を読んで、考えを深めてみましょう。

① 事実と意見の見極め

【事実】「〇〇パークは2021年に開園した」

〇〇パークが「2021年に開園した」ことが正しいかどうかは、しっかりと調べて裏付けを取れば、判定できます。

【意見】「〇〇パークは誰にとっても楽しい」

〇〇パークが「誰にとっても楽しい」ということが正しいかどうかは、調べても正否が判定できません。これは意見です。

② 推測と断定の見極め

【推測】「～と考えられる」「～だろう」「～と推測される」などの語尾が使われる。

ある根拠から考えた結果、こうだろうと推測したことを述べています。

【断定】「～である」「～となる」「～であった」などの語尾が使われる。

ある根拠から得た結果や結論、確証・確信を得て断定したことを述べています。

❸ 著者の主張について、考えたことなどを書きとめておきましょう。

1 探究の過程で、学校図書館から支援してもらえることを確認しましょう。

探究過程	学習内容	学校図書館で支援してもらえること
課題の設定	テーマに関する知識を獲得する 大テーマから小テーマに絞る 問いを見出す 探究の方針を決める	<input type="checkbox"/> 関連本の収集（資料提供） <input type="checkbox"/> ブックトークなどでの紹介 <input type="checkbox"/> ブックリストの作成 <input type="checkbox"/> レファレンス（テーマの相談） <input type="checkbox"/> 問いのワークシートの提供 <input type="checkbox"/> 過去の探究事例の紹介 <input type="checkbox"/> 過去の学習成果物の紹介
情報の収集	問いの答えを探す方法を考える 情報を収集する 情報を読み解く 情報の取捨選択をする	<input type="checkbox"/> 学校図書館の利用方法の指導 <input type="checkbox"/> OPACや情報検索の指導 <input type="checkbox"/> 資料の読み方の指導 <input type="checkbox"/> レファレンス（情報収集の相談） <input type="checkbox"/> 資料・情報の提供（公共図書館、大学図書館との連携など）
整理・分析	問いを確認する 考察する方法を確認する 情報をもとに分析する 情報をもとに問いの答えを考察する	<input type="checkbox"/> 思考ツールの提供 <input type="checkbox"/> 引用や要約の方法の指導 <input type="checkbox"/> 参考文献の記載法の指導 <input type="checkbox"/> レファレンス（考察法、追加情報の相談など）
まとめ・表現	まとめ・表現する方法を確認する 探究の成果を整理し、まとめる まとめた成果を表現する 表現した成果を共有（発表）する	<input type="checkbox"/> 多様な表現方法の提供 <input type="checkbox"/> レポートなどの見本の提供 <input type="checkbox"/> ポスターセッション実施法の提供 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション方法の指導 <input type="checkbox"/> レファレンス（制作物の作り方の相談など）
振り返り・評価	各段階で振り返る 各段階での学びの方法を修正する 学習の最終目標を評価する 新たな問いに向き合い、探究を続ける	<input type="checkbox"/> 評価表（ルーブリックなど）の提供 <input type="checkbox"/> 学びのプロセスの確認表の提供 <input type="checkbox"/> まとめや発展的なブックトーク <input type="checkbox"/> 発展的な資料・情報の提供 <input type="checkbox"/> 学習成果物の展示・掲示・保管など <input type="checkbox"/> レファレンス（新たな問いへの対応など）

2 学校図書館で支援してほしいことを書き出しましょう。

13-1

1 自分なりの問いを記入しましょう。

問い
 ラーニングコモンズ（LC）は学校内でどのような役割を
 果たせるのか ?

2 1の問いを解決するために、「小さな問い」をたくさんつくりましょう。

<input checked="" type="checkbox"/> そもそもLCにはどんな機能があるの？	<input checked="" type="checkbox"/> いつからLCが普及してきたの？	<input type="checkbox"/> LCはどれくらい大きいの？	<input checked="" type="checkbox"/> 先生たちはLCにどう関わっている？
<input checked="" type="checkbox"/> LC活用の成功事例は？	<input checked="" type="checkbox"/> 生徒はLCをどう思っている？	<input type="checkbox"/> LCがないとどんな損があるの？	<input type="checkbox"/> LCがあればどんな得があるの？
<input checked="" type="checkbox"/> LCがある学校はどれくらいある？	<input type="checkbox"/> おもしろいLCとはどんな感じ？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

3 2の「小さな問い」を見て、本当に必要そうなものだけにチェック☑を入れてみましょう。まずは、そこから調査を開始しましょう。

13-2

1 自分なりの問いを記入しましょう。

問い	?
----	---

2 1の問いを解決するために、「小さな問い」をたくさんつくりましょう。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

3 2の「小さな問い」を見て、本当に必要そうなものだけにチェック☑を入れてみましょう。
まずは、そこから調査を開始しましょう。

14

- ❶ 自分のテーマに関連する事項を確認します。まず、下の図のまん中に、学習のテーマを書きましょう。
- ❷ 8つのマスに、テーマに関連することで知っていることを書いてみます。

1	2	3
8	テーマ	4
7	6	5

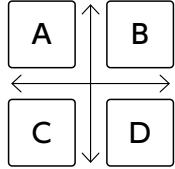
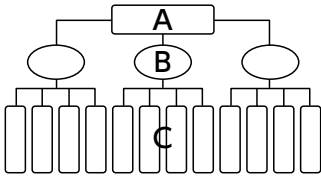
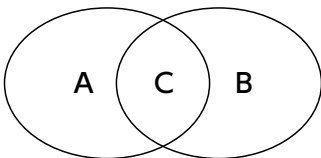
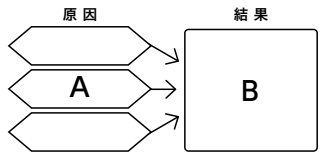
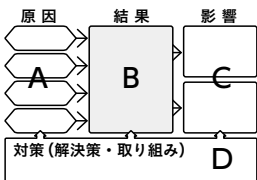
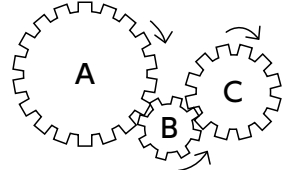
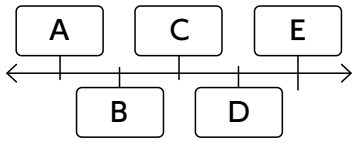
- ❸ ❷ですべてのマスが埋まったら、興味がある事柄を選択し、下のような図をつくって展開します。選択する事柄は1つでも、複数でもよいのですが、マスがあまり埋まらないなら、テーマに関する基礎知識が不足しています。百科事典などで下調べをしましょう。

	(1)			(2)			(3)		
			1	2	3				
	(8)		8	テーマ	4		(4)		
			7	6	5				
	(7)			(6)			(5)		

- ❹ 探究したいテーマが見つかったら、書いておきましょう。

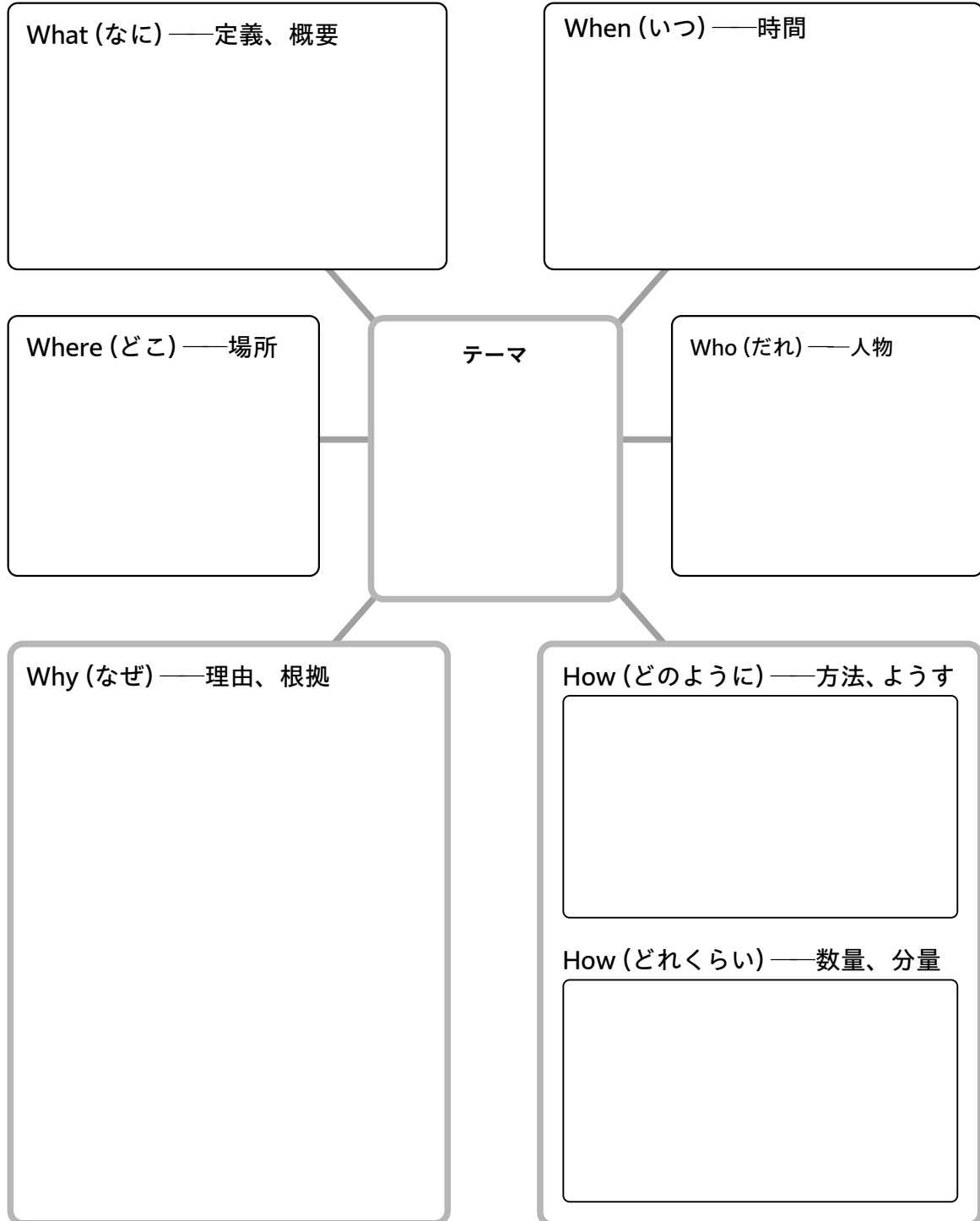
15

❶ 考えることを図式化して、わかりやすくしましょう。

<p>マトリックス図</p>		<p>A～Dの4つの要素に分けて考えてみる。A、B、C、Dの関連性や方向性を考えて分けるとよい</p>
<p>分類</p>		<p>AはB、BはC…のような階層構造で分類できる。また、文章化するさいは、主張Aと、それを支える理由Bと、その例Cと考えることもできる</p>
<p>比較対照</p>		<p>AとB固有の特徴（相違点）があり、Cという類似点もある</p>
<p>原因と結果</p>		<p>Aという原因の結果、Bという現象が起こった</p>
<p>原因・結果 + 影響・対策</p>		<p>Aという原因の結果、Bという現象が起こり、Cという影響がある。さらにDという対策がある</p>
<p>連鎖</p>		<p>Aが起こった結果、Bが起こり、Bが起こった結果、Cが起こるといふ連鎖関係がある</p>
<p>時系列変化</p>		<p>時間順にA、B、C…という出来事、変化がある</p>

❷ これらの図だけでなく自由に図を描きながら、考えをめぐらしてみよう。

❶ 基本的な5W1Hについての疑問を書きとめておきましょう。すべてを埋める必要はありません。

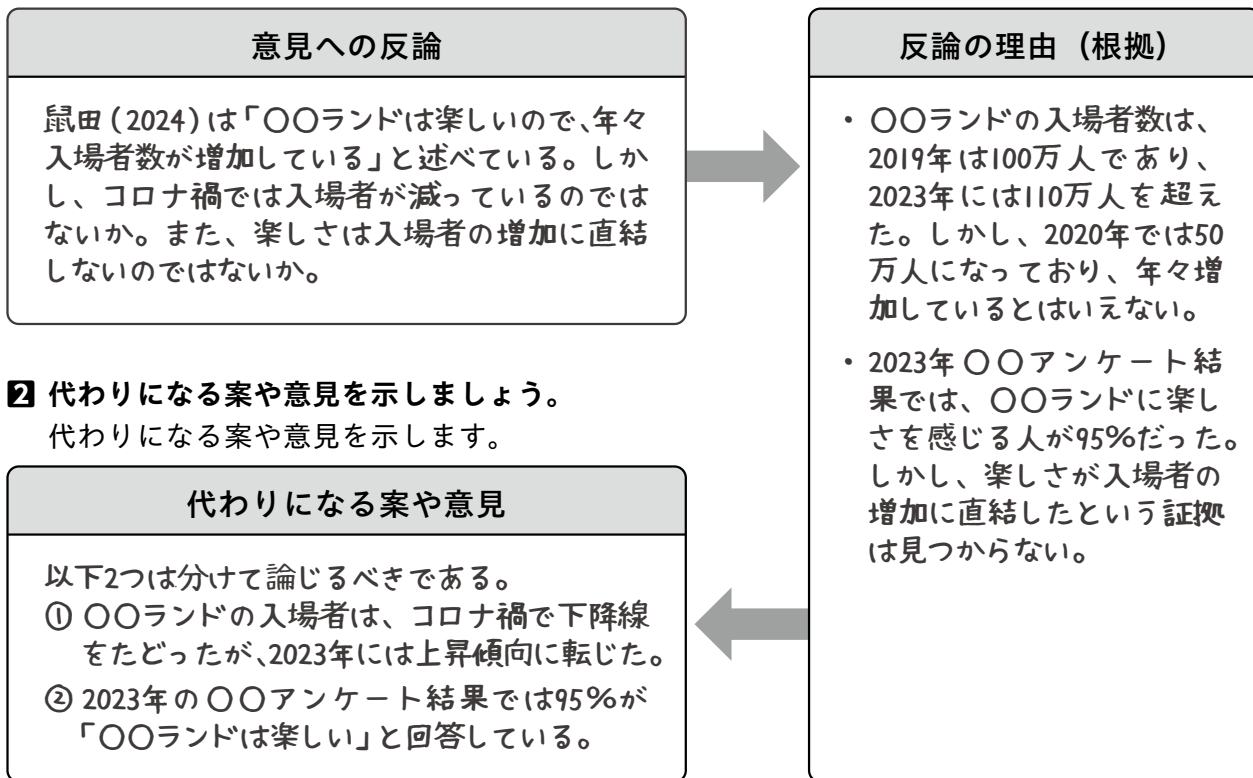


❷ 5W1Hの疑問を書きながら、他に思いついた疑問があれば書きとめておきましょう。

17-1

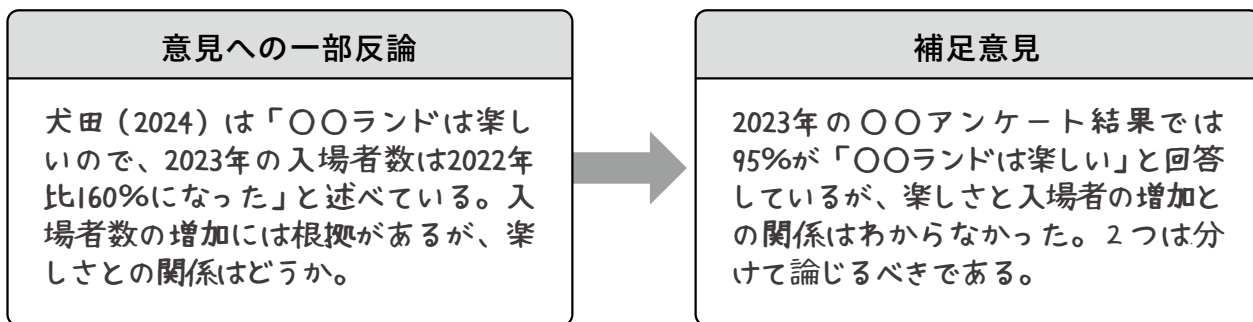
1 反対（否定）する理由（根拠）を示しましょう。

著者の意見に反論して、反論の理由（根拠）を示します。



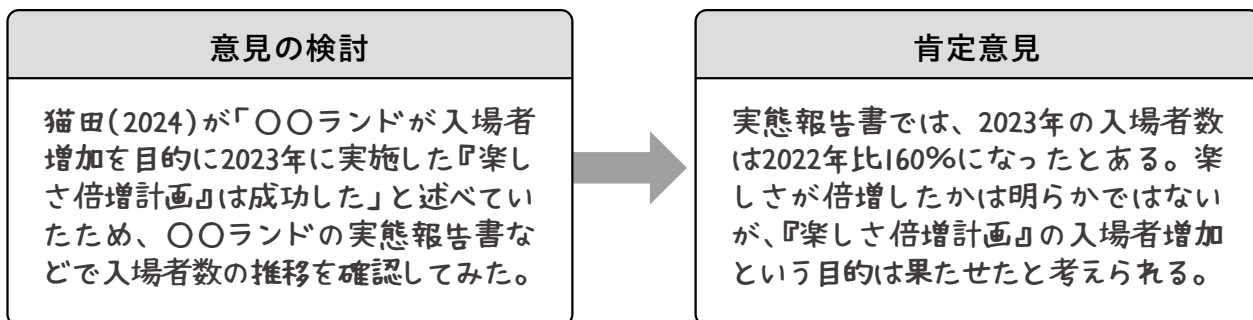
2 補足意見を示しましょう。

著者の意見の一部に反論して、反論した部分への補足を示します。



3 検討内容と賛成（肯定）意見を示しましょう。

著者の意見を多角的・多面的に検討した結果として、肯定意見を示します。



17-2

1 反対（否定）する理由（根拠）を示しましょう。

著者の意見に反論して、反論の理由（根拠）を示します。

意見への反論	反論の理由（根拠）

2 代わりになる案や意見を示しましょう。

代わりになる案や意見を示します。

代わりになる案や意見	反論の理由（根拠）

3 補足意見を示しましょう。

著者の意見の一部に反論して、反論した部分への補足を示します。

意見への一部反論	補足意見

3 検討内容と賛成（肯定）意見を示しましょう。

著者の意見を多角的・多面的に検討した結果として、肯定意見を示します。

意見の検討	肯定意見

「KWLチャート」は、探究の過程を通して使い、自分が知っていることや知りたいこと、そして学んだことを書き、知識の状態を確認していくものです。

- ❶ テーマを書きましょう。
- ❷ 探究前の自分が知っていることを「K」に書きましょう。
- ❸ 探究して知りたいことを「W」に書きましょう。
- ❹ 探究が終了した後、自分が学んだことを「L」に書きましょう。
- ❺ 自分の知識の変化を確認しましょう。

テーマ

K What I Know	W What I Want to Know	L What I Learned
私が知っていること	私が知りたいこと	私が学んだこと

❶ 指示された探究課題と最終成果物の予定を書きましょう。

❷ テーマに関連する自らの問いを書きましょう。

❸ 自らの問いに対する仮説を書きましょう。

❹ 問いを解くための、調査しなければならない事項(小さな問い)を書きましょう。

❺ 探究の計画と実施の記録をつけましょう。

探究過程	日程	実施予定	実施内容	自己評価
課題の設定				
情報の収集				
整理・分析				
まとめ・表現				

❻ 探究が終了後、振り返りを行い、さらに疑問に思ったことなどを書きましょう。

1 自分なりの問い (テーマや問題意識) を明らかにしておきましょう。

2 問いの背景 (テーマや問題意識の背景) を調べておきましょう。

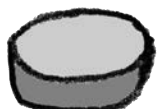
3 予想される答え (仮説) を考えておきましょう。

4 自分なりの問いを解くための「小さな問い」(調べること)を、いくつか紹介しましょう。

❶ ハンバーガーのパンズは主張、具は理由や根拠です。自分の意見をハンバーガー形式で考えましょう。

意見文のテーマ：

主張：



理由1：なぜなら、

参考文献：

理由2：それに、

参考文献：

理由3：また、

参考文献：

理由4：さらに、

参考文献：

結論：このように（したがって）、

❷ ハンバーガー形式の意見文を書いてみましょう。

22

1 自分の主張に反論があることも想定して、論証してみましょう。

1 問い	
↓	
2 主張・意見	
↓	
3 理由 1	4 理由 1 の例：裏づけや論拠 ----- 参考文献
→	
5 理由 2	6 理由 2 の例：裏づけや論拠 ----- 参考文献
→	
7 理由 3	8 理由 3 の例：裏づけや論拠 ----- 参考文献
→	
↓	
9 予想される反論 1 ----- 参考文献	10 予想される反論 2 ----- 参考文献
↓	
11 反論への反論 ----- 参考文献	

2 文章のひな形の例を参考に文章化してみましょう。

私の**1**についての意見は、**2**である。
 理由は3つある。まず、(第1に)**2**は**3**だからである。たとえば**4**のようなことがある。
 また、(第2に)**2**は**5**だからである。それは、**6**のような事実からも裏づけられる。
 さらに(第3に)**2**は**7**……**8**……だともいえる。
 確かに**9**や**10**といった意見もある。しかし、私は**11**だと考える。
 したがって、私は**1**について**2**だと考えている。

桑田てるみ(2016)『思考を深める探究学習』掲載の参考文献 ①

【和書】

- * 赤木かん子(2007)『テーマって…どうやってきめるの?』(図書館へいこう!; 3) ポプラ社
- * 赤木かん子・塩谷京子(2007)『しらべる力をそだてる授業!』ポプラ社
- * アドラー, M. J.・ドレーン, C. V. (1997)『本を読む本』外山滋比古・槇未知子訳 講談社
- * 井下千以子(2013)『思考を鍛えるレポート・論文作成法』慶應義塾大学出版会
- * 石坂春秋(2003)『レポート・論文・プレゼンスキルズ』くろしお出版
- * 泉 忠司(2009)『論文&レポートの書き方: 90分でコツがわかる!』青春出版社
- * 今泉浩晃(1998)『マンダラMEMO学: Mandal-Art脳のOSを創る』オーエス出版
- * 江川玟成(2005)『子どもの創造的思考力を育てる: 16の発問パターン』金子書房
- * 大庭コテイさち子(2009)『考える・まとめる・表現する: アメリカ式「主張の技術」』NTT出版
- * 小笠原喜康(2009)『大学生のためのレポート・論文術』新版 講談社
- * 学習技術研究会(2011)『知へのステップ: 大学生からのスタディ・スキルズ』第3版 くろしお出版
- * 片岡則夫(1997)『情報大航海術: テーマのつかみ方・情報の調べ方・情報のまとめ方』リブリオ出版
- * 関西大学初等部(2012)『関大初等部式 思考力育成法』さくら社
- * 関西大学初等部(2013)『思考ツール: 関大初等部式 思考力育成法〈実践編〉』さくら社
- * 関西大学初等部(2014)『思考ツールを使う授業: 関大初等部式 思考力育成法〈教科活用編〉』さくら社
- * 木下是雄(1994)『レポートの組み立て方』筑摩書房
- * 桑田てるみ・野村愛子・眞田章子(2010)『6ステップで学ぶ中学生・高校生のための探究学習スキルワーク』チヨダクレス(印刷)
- * 桑田てるみ編(2010)『思考力の鍛え方: 学校図書館とつくる新しい「ことば」の授業』静岡学術出版
- * 桑田てるみ(2011)『5ステップで情報整理! 問題解決スキルノート』明治書院
- * 桑田てるみ編(2012)『中学生・高校生のための探究学習スキルワーク: 6プロセスで学ぶ』全国学校図書館協議会
- * 桑田てるみ編(2015)『学生のレポート・論文作成トレーニング改訂版: スキルを学ぶ21のワーク』実教出版
- * 河野哲也(2002)『レポート・論文の書き方入門』第3版 慶應義塾大学出版会
- * 国立教育政策研究所教育課程研究センター[編](2013)『社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原理』(教育課程の編成に関する基礎的研究報告書5) 国立教育政策研究所
- * 後藤芳文・伊藤史織・登本洋子(2014)『学びの技: 14歳からの探究・論文・プレゼンテーション』玉川大学出版部
- * 関 浩和(2002)『ウェビング法: 子どもと創出する教材研究』明治図書出版
- * 宅間紘一(2008)『はじめての論文作成術: 問うことはきること』3訂版 日中出版
- * 田中共子編(2009)『よくわかる学びの技法』第2版 ミネルヴァ書房
- * 玉川学園 学園マルチメディアリソースセンター(2012)『MMRCユースガイド』
- * 玉川学園「学びの技」担当職員(2012)『学びの技 テキストブック』
- * 玉川学園「学びの技」担当職員(2012)『学びの技 参考文献リスト』
- * 田村 学・黒上晴夫(2013)『考えるってこういうことか! 「思考ツール」の授業』小学館
- * 田村 学・黒上晴夫・滋賀大学教育学部附属中学校(2014)『こうすれば考える力がつく! 中学校 思考ツール』小学館
- * 戸田山和久(2012)『新版論文の教室: レポートから卒論まで』NHK出版
- * 中澤 務ほか編(2007)『知のナビゲーター: 情報と知識の海—現代を航海するための』くろしお出版
- * 日本図書館協会図書館利用教育委員会図書館利用教育ハンドブック学校図書館(高等学校) 版作業部会編(2011)『問いをつくるスパイラル: 考えることから探究学習をはじめよう!』日本図書館協会
- * 庭井史絵ほか(2011)『地理で学ぶ6ステップ探究学習: 学校図書館を活用したカンタン世界の国調べ』チヨダクレス(印刷)
- * ノヴァック, J. D.・ゴウウィン, D. B. (1992)『子どもが学ぶ新しい学習法: 概念地図法によるメタ学習』福岡敏行・弓野憲一 監訳 東洋館出版社
- * 細谷俊夫ほか編(1990)『新教育学大事典』第一法規出版
- * 堀田龍也・塩谷京子編(2007)『学校図書館で育む情報リテラシー: すぐ実践できる小学校の情報活用スキル』全国学校図書館協議会
- * 松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター編(2015)『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房
- * 松本 茂・河野哲也(2007)『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』玉川大学出版部
- * 溝上慎一(2014)『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂
- * 三輪眞木子(2003)『情報検索のスキル: 未知の問題をどう解くか』(中公新書) 中央公論新社
- * ミント, バーバラ(1999)『考える技術・書く技術: 問題解決力を伸ばすピラミッド原則』山崎康治訳 ダイアモンド社
- * 文部科学省(2008)『中学校学習指導要領解説: 総合的な学習の時間編』教育出版
- * 八幡紘史(2007)『子供のための「発表力」トレーニング・プリント: 自分の考えをきちんと伝えられる!』PHP研究所
- * 遊佐幸枝(2011)『学校図書館発 育てます! 調べる力・考える力: 中学校の実践から』少年写真新聞社
- * リチャート, R.・チャーチ, M.・モリソン, K. (2015)『子どもの思考が見える21のルーチン: アクティブな学びをつくる』黒上晴夫・小島亜華里訳 北大路書房

桑田てるみ (2016) 『思考を深める探究学習』掲載の参考文献 ②

- * ロスステイン, ダン・サンタナ, ルース (2015) 『たった一つを変えるだけ：クラスも教師も自立する「質問づくり」』
吉田新一郎訳 新評論

【洋書】

- * Anderson, L. W., Krathwohl, D. R., Airasian, P. W., Cruikshank, K. A., Mayer, R. E., Pintrich, P. R., Raths, J., Wittrock, M. C. (2001). A Taxonomy for learning, Teaching, and assessing: A revision of Bloom's taxonomy of educational objectives. Pearson, Allyn & Bacon.
- * Bellanca, J. (1990). The Cooperative Think Tank. IRI/Skylight Training and Pub.
- * Black, H., Black, S. (1990). Organizing thinking: Book II : Graphic organizers. Critical Thinking Co.
- * Bloom, B., Englehart, M., Furst, E., Hill, W., Krathwohl, D. (1956). Taxonomy of educational objectives: The classification of educational goals. Handbook I: Cognitive Domain. New York: Longmans Green.
- * Burke, J. (2002). Tools for thought : Graphic organizers for your classroom. Boynton/Cook Pub.
- * Callison, D. (2015). The Evolution of inquiry : controlled, guided, modeled, and free. Library Limited.
- * Cottrell, S. (2005). Critical thinking skills : Developing effective analysis and argument. Palgrave Macmillan.
- * Eisenberg, M. B., Berkowitz, R. E. (1999). Teaching information & technology skills: The Big6 in elementary schools. Worthington, Ohio: Linworth.
- * Eisenberg, M. B., Berkowitz, R. E. (2000). Teaching information & technology skills: The Big6 in secondary schools. Worthington, Ohio: Linworth.
- * Forte, I., Schurr, S. (2001). Standards-based science graphic organizers, rubrics, and writing prompts for middle grade students. Incentive Pub.
- * Harada, V. H., Kirio, C. H., Yamamoto, S. H. (2008). Collaborating for project-based learning. Linworth Pub.
- * Harada, V. H., Yoshima, J. M. (2004). Inquiry learning through librarian-teacher partnerships. Linworth Pub.
- * Hyerle, D. (1996). Visual tools for constructing knowledge. Assn for Supervision & Curriculum.
- * Jacobson, J., Raymer, D. (1999). The Big book of reproducible graphic organizers : 50 Great templates to help kids get more out of reading, Writing, Social Studies & More. Scholastic Teaching Resources.
- * Jansen, B. A. (2007). The Big6 in Middle School : Teaching information and communications technology skills. Linworth Pub.
- * Kruse, D. (2009). Thinking strategies for the inquiry classroom. Curriculum Corp.
- * Kuhlthau, C. C., Maniotes, L. K., Caspari, A, K. (2012). Guided inquiry design. Libraries Unlimited.
- * Murray, J. R. (2007). Achieving educational standards using the Big6. Linworth Pub.
- * O'Steen, B., Spronken-Smith, R. (2012). Inquiry-guided learning in New Zealand: From an appetizer to an entrée. New Directions for Teaching and Learning. 129, p. 39-49.
- * Parks, S., Black, H. (1992). Organizing thinking: book II : graphic organizers. Pacific Grove, Calif : Critical thinking books & software.
- * Pirozzo, R. (2005). Improving thinking in the classroom. Hawker Brownlow.
- * Stafford, T. (1997). Teaching students to form effective questions. Knowledge Quest : Journal of the American Association of School Librarians. 26(1), p. 48-55.

【Webサイト】

- * 大学発教育支援コンソーシアム推進機構 (CoREF) . 「知識構成型ジグソー法」
<<http://coref.u-tokyo.ac.jp/archives/5515>>. (2016. 8. 1)
- * 文部科学省. 「教育課程企画特別部会における論点整理について (報告)」
<http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/sonota/1361117.htm>. (2016. 8. 1)
- * 文部科学省. 「次期学習指導要領改訂に向けたこれまでの審議のまとめ (素案)」
<http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/siryo/1375316.htm>. (2016. 8. 1)
- * 文部科学省. 「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について (諮問)」
<http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1353440.htm>. (2016. 8. 1)
- * 文部科学省. 用語解説 「ラーニング・コモンズ」
<http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/attach/1301655.htm>. (2016. 8. 1)
- * 文部科学省. 用語集 「アクティブ・ラーニング」
<http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_3.pdf>. (2016. 8. 1)
- * Alberta Learning. Learning and Teaching Resources Branch. Focus on Inquiry : A Teacher's Guide to Implementing inquiry-based learning. <<http://education.alberta.ca/media/313361/focusoninquiry.pdf>>. (2012. 7. 7)
- * The Big6. <<http://www.big6.com/>>. (2012. 7. 7)
- * Partnership for 21st Century Learning. (2007). Framework for 21st century learning.
<<http://www.p21.org/about-us/p21-framework>>. (2016. 5. 27)